

幻視への対応

幻視に対しては、「そんなものは見えない、いない」と否定せず、話を十分に聞いて、患者さんに落ち着いてもらうようにします。

幻視は、薄暗い場所であらわれやすいため、部屋や廊下は明るく保つようにしましょう。また、視空間認知障害があるため、ハンガーにかかった服が人に見えたり、カーテンの柄を虫に見間違えるといった錯視さくしが起こります。原因となるようなものは取り除くようにしましょう。



睡眠中の異常行動への対応

睡眠中に激しく暴れたり、怖がったりしているときは、部屋を明るくする、目覚まし時計を鳴らすなどして起こすようにします。体をゆすって急に起こすと、夢と現実を混同して、興奮状態になってしまうことがあります。また、手足を振り回した際にケガをしないようにベッド周りには危険な物を置かない、ベッドから転落しないように柵を設置するなどの対策も大切です。

便秘への対応

便秘はレビー小体型認知症の患者さんに多くあらわれる症状の一つです。水分と食物繊維を十分にとって、便秘の予防に努めましょう。便秘が続く場合には、主治医に相談しましょう。



そのほか、状態の悪い時は動きかけをせず、部屋で静かに過ごしてもらうといったことも大切です。

ドネペジル塩酸塩「サワイ」 レビー小体型認知症の患者さんと ご家族・介護者の皆様へ

監修 神奈川歯科大学附属病院 認知症・高齢者総合内科 教授 眞鍋 雄太 先生



- レビー小体型認知症とは
- 治療について
- ドネペジル塩酸塩「サワイ」について
- 日常生活で気をつけて頂きたいこと

■ レビー小体型認知症とは

レビー小体型認知症とは、「レビー小体」という異常なタンパクの構造物が脳や脳幹、皮膚といった全身の細胞の中にあらわれ、特に脳の神経細胞が破壊されてゆくことで認知症を生じた病気です。脳は運動や思考、言語、聴覚、視覚など、たくさんの機能をつかさどっているため、様々な症状があらわれます。

認知機能の低下

認知機能とは、記憶する、場所や時間を把握する、ものごとを理解・判断する、行為を実行するといった脳の働きのことで、レビー小体型認知症では、病気の進行に伴ってこれらの認知機能が徐々に低下していきます。レビー小体型認知症の初期は、もの忘れ(記憶障害)はそれほどひどくはないことが多いですが、注意力は低下しているため、ものごとに集中できず、日常生活で今までできていたことがうまくできなくなる場合があります。また、アルツハイマー病を合併すると、もの忘れを強く認めるようになります。視空間認知機能の低下により、見間違いなどが増えます。

認知機能の変動

頭がはっきりしている状態と、別人のようにぼーっとしている状態が交互にあらわれます。ぼーっとしている時には、今までできていた日常生活動作が突然できなくなることがあります。変動の間隔は、数分～数時間、数週～数ヵ月など様々です。

幻視

実際には見えないものが見えるという症状です。見えるものの多くは人や小動物、虫です。具体的で生々しい内容の幻視が繰り返し起こることが特徴です。

幻視の例

- ・ 知らない子供たちが寝室で遊んでいる
- ・ ネズミが床を走りまわっている
- ・ ベッドの中に虫がたくさんいる



パーキンソン症状

動作が遅い、安静時に手足がふるえる、前かがみの姿勢、小刻み歩行、転倒しやすい、小声になる、無表情といったパーキンソン症状があらわれます。



睡眠中の異常行動

睡眠中に、大声で怒鳴る、奇声をあげる、手や足を振り回して暴れるといった異常行動があらわれます。こうした異常行動は夢の内容と一致しており、夢を見ていることの多いレム睡眠中に起こります(レム睡眠行動異常症)。



自律神経の異常

自律神経は、消化や排泄、血圧、体温などを調節しています。自律神経の働きに異常が生じることで、めまいや立ちくらみ、上半身に局限して汗を大量にかく、頑固な便秘、頻尿などの症状があらわれます。

うつ状態

気分が落ち込んで、意欲が低下することで、憂鬱になる、テレビや趣味が楽しめない、身だしなみに無関心になるといった状態になります。

そのほかにも、ある特定のお薬(抗精神病薬*)が過剰に効きやすくなる、日中に異常に強い眠気を感じるなどの症状があらわれることもあります。

※抗精神病薬:主に幻覚や妄想を改善させる作用を持つお薬

レビー小体型認知症は三大認知症の一つで、認知症の中ではアルツハイマー型認知症に次いで多いといわれています。

三大認知症

- ・アルツハイマー型認知症
- ・レビー小体型認知症
- ・脳血管性認知症※

※脳出血や脳梗塞によって起こる認知症

レビー小体



横浜市立大学医学部名誉教授
小阪憲司先生より病理標本スライド提供

レビー小体型認知症では、レビー小体が大脳の広い範囲に蓄積しますが、レビー小体が蓄積する原因は今のところ解明されていません。

しかし、レビー小体の主成分が α -シヌクレインというタンパク質であることはわかっており、レビー小体型認知症を治療するための薬剤の研究・開発が進められています。

治療について

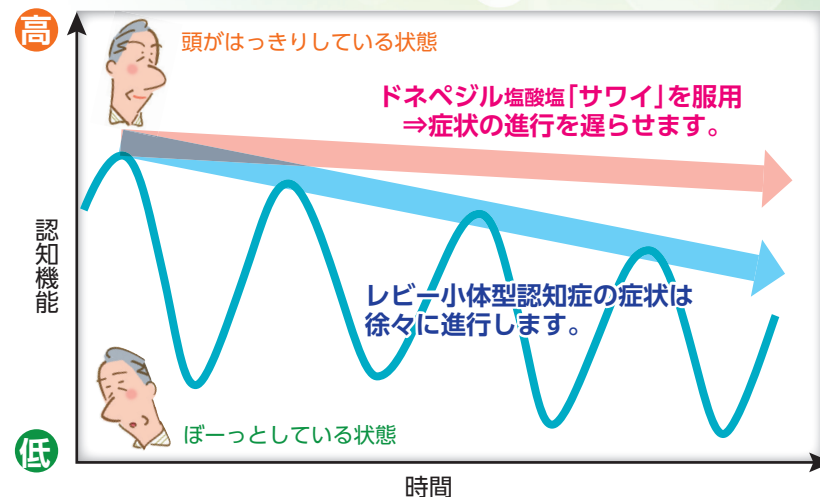
現時点では、レビー小体型認知症という病気そのものを根本的に治したり、進行を止めたりする治療法はありません。それぞれの症状を改善させる目的で薬が使われます。また、生活環境の整備やリハビリテーション(歩行訓練)といった薬の服用以外の対策も併用されます。

治療に使われる薬剤の例

認知機能障害	コリンエステラーゼ阻害薬(ドネペジル) など
幻視	抗精神病薬、漢方薬 など
パーキンソン症状	抗パーキンソン病薬 など
睡眠中の異常行動	抗てんかん薬 など
うつ状態	抗うつ薬 など

ドネペジル塩酸塩「サワイ」について

ドネペジル塩酸塩「サワイ」は、レビー小体型認知症による認知機能障害に対して使われるお薬です。認知機能を改善し、症状の進行を遅らせます。



お薬の服用方法

1日1回服用 してください。

主治医の指示を守って、決められた量を服用してください。

お薬の開始方法

服用開始



▶ お薬を飲むにあたっての注意事項は次のページを参照してください。

注意事項

- ドネペジル塩酸塩「サワイ」は1日1回服用するお薬です。
食前、食後、食間、寝る前など、いつ飲んでもかまいませんが、主治医から指示があった場合は指示に従って服用してください。
- 飲み忘れても2日分を一度に飲まないでください。
- 間違えてたくさん飲んでしまったときは、**すぐに主治医に連絡してください。**
- **症状に変化が見られなくても、患者さん本人やご家族・介護者の判断で服用を中止したり、量を変更したりしないようにしてください。**

OD錠を服用される患者さんへ

このお薬は、口の中で速やかに溶けます。

- 水なしで飲むことができます。唾液を含ませ舌で軽く押しつぶして、唾液と一緒に飲み込んでください。
- 普通のお薬と同じように水またはぬるま湯で飲むこともできます。
- どちらの飲み方でも、効きめは変わりません。



副作用について

以下のような副作用があらわれることがあります。

- 下痢や便がやわらかくなる、食欲不振、吐き気などの消化器症状
- パーキンソン症状の悪化

症状の程度が強かったり、いつもと違う状態が続いたりする場合には主治医や薬剤師に相談してください。



日常生活で気をつけて頂きたいこと ～ご家族・介護者の皆様へ～

転倒の防止

レビー小体型認知症の患者さんはパーキンソン症状などによって転倒しやすくなっています。転倒すると、骨折や痛みで寝たきりの状態になってしまうこともあるため、以下のような転倒を防ぐ工夫が大切です。

- 新聞や雑誌、コード類、ビニール袋など、つまずいたり、すべったりしやすいものは床に置かないようにする。
- 物を取ろうとしたはずみに転んでしまうことがあるため、体を乗り出したり、かがんだりしなくて済むように、よく使う物は取りやすい場所に置くようにする。
- 屋外には可能な限り付き添う。
- 外出時は両手が使えるかばん(リュックサックやショルダーバッグ)を使用してもらうようにする。

